

チャレンジ工房News

第 42 号

平成 26 年 9 月発行

発行先 パソコン工房チャレンジ

編集責任者 曲 圭子

工房の日々 ～それぞれの研修風景～

Word

5 月から工房内で障害者向けに開講しているパソコン教室や市内の障害者作業所・就労支援センター・保健所などの紹介により、うれしいことに所員さんが増えました。

所員さんの中には、会社で勤めていた頃に Word や Excel でのデータ入力・インターネット検索などの基本的なパソコンでの事務処理の経験がある所員さんもおられる。パソコンに触れること自体が全く初めてという所員さんもおられます。

会社でパソコンを使っている事務経験がある所員さんやインターネットなどのパソコンの基礎知識がある所員さんは、通所したらパソコンの画面とテキストの内容を照らしながら、黙々とされ、何名かの所員さんは 1 ヶ月あまりで Word の基礎のテキストを一冊やり終え、今は応用のテキストの研修に取り組まれています。

一方で工房に通所し始めて、初めてパソコンに触れる所員さん、本格的にパソコンの勉強を始められた所員さんは、キーボードを使ってパソコンに文字を入力することや自身が、パソコンに入力した文字がプリンタで活字として、印刷されることすべてが新鮮そのものみたいです。



先月末に当工房に新しく入所してきた所員さんの一人は、自分が Word でテキストの例文をパソコンで入力したものを実際にプリンタで印刷し、活字としてプリントアウトされると「いや、感激です。自分がパソコンで入力したものがプリンタでこんなに綺麗に印刷できるなんか」「額ぶちに入れて家に飾ろうかなあ…」とうれしそうに話されていました。

うれしそうに話している彼女の姿をみて、私たちもうれしくなりました。

彼女も一般企業での社会復帰を目指しているとのことなので、これから研修を積み重ねていくことで、一つずつでもパソコンできることを増やして、「社会復帰」という一つの目標を 1 日でも早く達成してもらいたいと考えています。

イラスト

前々月号でも紹介したように、当工房の最年少の A さんは 6 月頃からイラストレータやペンイトを使って、カレンダー用の挿絵やポストカード用の秋のイラストやハロウィンのイラストなどを描いています。

最初は、ベンダブレットで落書き風に平面的に描いていましたが、ここ最近ではイラストレータの操作にも彼女なりに慣れてきたようで、今では、「楕円形ツール」や「長方形ツール」とかの図形ツールを使って、図形を描いていき、図形を組み合わせ、立体的に「ひまわり」や「もみじ」などのイラストを描いています。

スタッフ間でも「最近、A さんイラストを描く腕を上げたね。」と話していて、喜んでます。

これからも彼女には、イラストを描くことを楽しみながら、「グラデーションツール」を使って色を複雑にしたり、色鉛筆風にアレンジしたりするなどのイラストレータのツール使い方やアレンジの仕方についても勉強してもらいたいと思っています。



所員 A さん作

9月～11月の予定	
9/23(火・祝)	物づくり きずな市 10:00～16:00 西宮六壇寺公園
10/12(日)	尼崎市民まつり 10:00～17:00 市役所・橋公園
11/8(土)	市民福祉のつどい 10:00～15:00 橋公園
11/8(土)	わっしょいカーニバル 13:00～15:00 中央公民館

来年のカレンダーの予約注文始めます・・・

先月号でも紹介したように、当工房にとって初となるオリジナル卓上カレンダーの試作品ができました。これから今月の「きずな市」や来月以降の「市民まつり」や「市民福祉の集い」での販売に向けて、スタッフ・所員さんの家族にも手伝ってもらい印刷や組み立て作業などに入って行こうと思っています。



成させて販売できればと考えています。

順次、当誌でも工房のホームページでも紹介させて頂く予定です。

今はまだ、卓上カレンダーしか試作品は完成できていませんが、11月・12月のカレンダーの本格的な販売時期には、葉書きサイズの卓上カレンダーだけではなく、A4サイズの壁掛けカレンダーやA5サイズの大判の卓上カレンダーも近日中に試作品を完



葉書きサイズ 卓上	500 円
A4 サイズ壁かけ	800 円
A5 サイズ 大判卓上	650 円

お問い合わせ・ご予約先

電話 06-4981-8120

メール challengeama@yahoo.co.jp

担当 曲(まがり)

東北からのお話を聞く集いに参加しました

先月18日に、仙台よりいつも美味しいバタークッキーやごまクッキーを届けて頂いている「麦の会」の飯島さんと、私たちの「東北障害者作業所の物品販売事業」の東北の10か所ほどの作業所の窓口になって頂いている「B-room」の田中さんの2名の作業所の職員さんにはるばる尼崎までお越し頂き、現在の東北の復興状態や作業所などの様子、実際に東北大震災を経験したことから、近い将来、南海トラフの大地震を経験するであろう私たちに伝えておくべき教訓などを話して頂きました。



2011年3月の震災から、今月で3年半になるのですが「完全復興」への見通しは、依然としてまだメドが立ってなく、「復興住宅」の整備もあと2～3年はかかるようで、今も不便な仮設住宅などの避難生活を余儀なくされているようです。

障害者作業所も震災直後は、地震の揺れで作業所の建物が半壊したり、津波の泥で泥まみれになったようで、日頃の作業所の活動を取り戻すのに数か月もかかったようです。

私たちには、はかり知れないほどの作業所の仲間や職員の方の絶えない苦労や頑張りがあるって、ほとんどの作業所が建物を建て替えたり、仮設住宅の共有スペースを間借りされるなどして、震災前の日常を取り戻されつつあるようです。

麦の会の飯島さんのお話の中には、「震災後、クッキーやパンの販売を再開したら、うちのクッキーやパンの味を知ってくれている地域の人たちが買いに駆けつけてくれて、震災前よりも売上が伸びた」と喜びの声も聞くこともできました。

日々工賃仕事のことなどを考えている私にとって、とても印象的でした。

田中さんからは、「巨大津波地震などから身を守るためにも、日頃より隣近所の人たちと親しくなり、自分の存在を知ってもらうことで緊急時に助けて貰う関係を築いていくことが大事だ」と南海トラフ地震への不安を抱えている私たちに東北の津波地震の体験をもとに話して頂きました。

今回、飯島さん・田中さんのお話を伺って、特に私たち障害者は日頃から防災意識をもち、地域の方々と日頃から親しくなって親近感を持つことや、「最悪の事態」のことを絶えず考えて、繰り返し避難訓練などを行うことが必要不可欠だと再認識させられました。

